

岩手の生協の今をお伝えする

岩手の生協

VOL.47 2018.8

岩手県生活協同組合連合会

〒020-0690 岩手県滝沢市土沢220-3

☎019-684-2225 / ☎019-684-2227



第53期通常総会は全議案を満場一致で採択



安倍改憲の危険性を学んだ憲法集会に900名参加



ピースウェーブ七タアクションでヒバクシャ署名を訴え



「9条守って」「ウソつき政治はもうたくさん」県民集会開催

特集

岩手県生協連 第53期通常総会報告

～「平和・いのち・くらし・地域・経営」の「5つの危機」に立ち向かい、
憲法改悪反対や、だれもが安心してくらせる地域づくりをすすめよう～

9条改憲NO！みんなのための政治を取り戻そう！

～街宣行動や学習会、県民集会を開催～

■会員生協トピックス

- ・岩手県庁生協
- ・盛岡大学生協

■岩手県生協連トピックス

- ・協同組合の力で苗木600本植林
- ・被災地でのふれあいサロン3,500回超える
- ・ヒバクシャ国際署名「Peace Wave 2018」開催
- ・全国の協同組合人へ「岩手の生協ものがたり」

岩手県生協連

第53期通常総会を開催しました

『「平和・いのち・くらし・地域・経営」の「5つの危機」に立ち向かい、憲法改悪反対や、だれもが安心してくらせる地域づくりをすすめるよう』

6月20日、代議員・オブザーバー・理事・監事50人が出席し、第53期（2018年度）通常総会を開催しました。総会では、ヒバクシャ国際署名や3,000万署名など平和の取り組みや、協同組合の理念や生協の目的・使命を学ぶことなどに力を入れた「2017年度事業・決算報告」、戦争する国づくりや憲法改悪に反対する取り組みや、被災地支援、だれもが健康で安心してくらせる地域社会づくりなどの重点課題をすすめる「2018年度事業計画・予算」、「役員補充選任」など7つの議案が審議され、全議案を満場一致で採択しました。



《今年度の取り組みの重点》

県生協連が第8次中期計画（2015年～2019年）で掲げているのは、組合員や会員生協は「平和・いのち・くらし・地域・経営」の5つの危機に直面しているという認識です。危機に対して諸団体と力をあわせて立ち向かっていくことが、組合員や地域社会を守ることに通じ、その結果生協

は真に地域に根ざし、信頼され、サポートされる存在になれるのだとして、第一の目標に掲げてきました。

地域における組合員や県民は、さまざまな困難におかれており、一生協だけの奮闘ではどうにもなりません。人々を苦しめる社会問題や矛盾を解決するにはどうすればいいか、生協運動の使命はなにかを常に学び、考えながら、他の協同組合・諸団体・地域行政などと協同して、人々の共通の願いを実現するために、中期計画の4年目の年として以下の取り組みを重点にすすめていきます。

《みんなで取り組む重点課題》

①「平和・いのち・くらし・地域・経営」の「5つの危機」に真正面から立ち向かう組合員・県民参加の運動を、ネットワークを広げながら積極的にすすめます。

す。

- ・戦争する国づくりや憲法改悪に反対し、平和を守る運動。
- ・被災地の要望にそった復興支援や生活再建制度の拡充要求、地域づくり。

- ・社会保障制度の改悪や消費税増税に反対し、くらしを守る運動。
- ・食・食の安全、農林漁業を守り育てる運動。
- ・灯油運動。
- ・消費者権利が守られ、消費者が重視される行政を求める取り組み。

- ・原発再稼働に反対し、脱原発、再生可能エネルギーへの転換を求める運動。

②生協運動・協同組合運動の果たす役割や使命を学び、話し合う取り組みをすすめます。

- ・生協交流会や協同組合講座開催。
- ・協同組合間の提携の強化。
- ・「岩手の生協ものがたり」を発

刊し、協同組合の思想とロマンを学ぶ取り組み。

③「だれもが健康で安心してくらせる地域づくり」に向けて取り組みます。

- ・地域のニーズにそいながら、健康で安心してくらせる地域づくりの実践。

- ・行政との懇談を通して、協同のある街・コミュニティづくり。
- ・岩手県ユニセフ協会と協力しながらのユニセフ活動。

④会員生協の運動・事業・経営に役立ち、県内の生協への支持・信頼を広げる県連の役割・機能を強化します。

- ・会員生協のきびしい事業・経営環境の中で組合員のくらしに役立つ事業がすすむよう、生協間の連携を推進。

- ・県生協連や会員生協の社会的活動を多くの県民やオピニオンリーダーに発信。

《山口発言(要旨)》

特養老人ホーム「はなみずき」と健康チャレンジの取り組み

盛岡医療生協 関口孝子代議員



特養老人ホーム「はなみずき」は、4月の

オープン記念には2日間で1,000名以上の来場があった。

の寄付金を集めるといふ途方もない取り組みだったが、みなさまの協力に本当に感謝したい。医療生協の職員・組合員も地域訪問やバザーを行ったり、他団体を回って趣旨を説明して寄付を募ったりした。寄付金の他にもバザー品の提供や購入など様々な形で協力をいただき、組合員個人への信頼、各事業所への信頼、改めて日々積み重ねてきたことが目標を達成することにつながったと思う。日常の活動がすごく大事だと感じた。岩手協同福祉会を設立し運営にあたるが、一人ひとりの善意が集まってできたものだし、発展させていきたいと思う。

また、昨年に引き続き健康づくりのきっかけにと、「健康チャレンジ」に取り組む。岩手はまだま

だ塩分摂取量が多いので、生協としても減塩に取り組んでほしい。また、今年は医療生協50周年。9月9日に「健康まつり」を開催するので、こちらもぜひ参加していただきたい。

平和憲法9条を守る運動や消費税増税反対運動、県生協連への期待

いわて生協 反町久美代議員



平和憲法9条を守る取り組みについて、いわて生協では2月から「憲法カフェセット」(お菓子和DVDの

セット)をつくり、希望するこぶ委員会にプレゼントし、憲法について関心を持ってもらおうという取り組みをしたところ、予想以上の申し込みがあった。アンケート結果から改めて憲法について考えるきっかけにはなったことがわかったが、まだまだ無関心層も多い。国民投票になったときに一人ひとりが自分のこととして考えられるように、みなさんとも連携して学習を進めたい。

消費税増税について、今の状況の中での消費税の引き上げは格差と貧困を広げるだけであり、これ

以上の増税に反対していきたい。会員生協とも情報交換をしながら運動を進めたいと思うので、県生協連には連携や調整役をしっかりと担っていただき運動が進むような活躍をお願いしたい。

FEC(フード・エネルギー・福祉)自給ネットワークづくりと組合員拡大

生活クラブ生協 四戸美穂代議員



安全・健康・環境をテーマにFEC(フード・エネルギー・福祉)自給ネットワーク作りに取り組んでいる。何をどのように

選択するかによつて、未来が変わってくると考えている。

昨年、生活クラブ生協は30周年を迎え、記念行事や記念消費財の開発、記念誌などの発行に取り組んだ。2018年度は安全・健康・環境をテーマに組合員の拡大に努め、昨年から開始した個別配達を、組合員が配達し、コースを増やす取り組みを広げていきたい。

社会的な課題を抱えた方の救済のための連携・情報交換の重要性

消費者信用生協

山口貴伸代議員

第2号議案



「いのちの危機」に関連して、信用生協は貸付業務を行っているが、多重債務相

談が主だった相談が従来の貸付では解決できない様々な問題に直面することが多くなった。豊かな資産を相続する背景で負った債務を持つ方と、生活ぎりぎりのシングルマザーなど2極化がどんどん進んでいる。その中で、社会的な課題を抱えた方に対して、税の問題、障害・高齢や就労など債務整理だけでなく、救済の必要が出てくる。そのためには、地域の社会福祉員などの連携や従来の弁護士、消費者行政の方だけでなく、より広い範囲での連携が必要になっており、生協連のみなさんとも連携・情報交換をしながら、活動を進めたい。

大阪の地震への全労済の共済金の対応

岩手県労済生協 赤坂徹さん

大阪の地震対応について、被害状況はまだ把握できていないが、共済金の支払申請が昨日時点で1、



600件超
なっており、今
後の見通しとし
て50日目頃には
15,200件
を超えるのでは
かと思っています。
全労済として

も、一刻も早く組合員に共済金が
支払えるよう取り組みを進めたい。

ドキュメンタリー映画を中心とし
た地域上映

みやこ映画生協 櫛桁一則代議員



今年度の重点
課題の中で「O
KINAWA
1965」など
のドキュメンタ
リー映画の上映
特集を行う予
定。みやこ映画

生協なりの形で参加していき
たい。昨年、みやこ映画生協がか
わったドキュメンタリー映画「廻
り神楽」は、今後も地域上映会を
進めてくので、みなさんの地域で
も予定がありましたら声をかけて
いただきたい。

食堂での牛乳普及の取り組みと
平和問題に関心を広げる働きかけ



岩手大学生協 塚原英明代議員
岩大生協では
新たな取り組み
として、牛乳普
及協会と協力し
て2年前から
「牛乳の日」に
牛乳1,500
個無料で配布し

たり、食堂で牛乳を使った和食メ
ニューの提供を行った。アンケー
トでもかかってないほど評判がよ
く、健康を考えるきっかけになっ
た。若者を取り巻く環境として、
学生は就職率が上がってきている
ことから今の政権に対する評価が
高いが、一方では平和の問題やブ
ラック企業など問題もあり、若者
の思いや現状を知り、しらせる取
り組みを進めたい。

協同組合存立とアイデンティティ
喪失への危機意識

花巻農協 吉田正志代議員



減損会計導入
から10年以上に
なるが、今それ
が農協経営に大
きな障害となり
つつある。農協
は本来、地域に
組合員がいて地

域の人たちの信用・共済、販売な
どの事業を行うので株式会社とは縁が
ないはず。しかし積極的に導入を
したことで、今後生協や色々など
ところで資本主義経済理論が展開さ
れていくのではないかと危惧して
いる。このままいくと、協同組合
の存立とアイデンティティを失う
可能性もあるという心配があり、
そこはしっかりと抵抗していければ
と思うが、様々な形で監査機能な
ど横から手を入れて組織の抵抗力
を失うやり方をここ10年行われて
いる。生協を含めた協同組合に対
する正面からではない攻撃がある
ことを痛感しているが、きちんと
反対したことがないので、どのよ
うにしたらよいか悩んでいる。農
協組織としては重大な問題なの
で、もし良いアイディアがありま
したら教えていただきたい。

《い意見への理事会からの答弁》

吉田敏恵専務理事



※発言が提案へ
の賛成意見だっ
たため、個別の
回答は行わず、
生協運動として
重要と思う視点
を補強的に述べ
ました。

各会員生協ともそれぞれ活発な
活動をされていると感じたし、改
めて認識も新たにしたいし生協連の
活動にも活かしていきたい。

健康の活動について「健康チャ
レンジ」には全会員生協と連携し
て取り組めないか、前回理事会で
も出ているので今年は議論してい
く。減塩の取り組みについて、個々
の取り組みだけでなく食堂や販売
など事業を行っている生協でも意
識してもらいたい。

平和の取り組みについて、憲法
カフェという取り組みやすい環境
をつくっての運動は素晴らしいと
思うし、県連としても学びながら
取り組んでいきたい。



信用生協の相談事業について、様々な社会問題に直面している方の発言と思った。生協連としてももつと情報交換の場として役立つようにしていきたい。子ども食堂やフードバンクなど県生協連が主催というより、会員生協をつなげる役割ができるようにしていく。労済生協の被災組合員への対応

の早さや全国的な結集に感謝し、引き続き対応をお願いしたい。みやこ映画生協は娯楽性もあるが社会性もある骨太な作品の上映も取り扱うところで、県連としても宣伝なり協力していく。岩手大学生協の牛乳メニューは若い人が健康に気をつけるきっかけにもなり、良いアプローチをさ

れているのに感心した。平和については、若い人の実相に合わせ、もう少しアプローチのやり方を考えていきたい。ブラックバイトや奨学金の問題など深刻化しているで、そのような学習会等も考えていく。協同組合について、アイデンティティが喪失するのではという危機

感で発言されたと思うので、今後学習を進めていく必要がある。理事会の中でも話題にしていきたい必要があると感じた。普段思いつかないような発言もたくさんいただいたので、今後理事会や実務者会議の中で具体的な話し合いを進めていきたい。

9条改憲NO! みんなの政治を取り戻そう! 安倍9条改憲NO! 全国市民アクション・岩手の会で街宣行動や学習会、県民集会を開催

政府自民党は9条に自衛隊を書き込む「加憲」など改憲の年内発議を目論んでいます。民意が十分に反映されない現国民投票法では改憲派に圧倒的に有利。平和憲法が変えられ、戦争する国になるという最大の危機が訪れようとしている中、公文書改ざん問題や自衛隊日報の隠ぺい問題など、民主主義を破壊し、政治を私物化している行為に国民の怒りが湧き上がっています。改憲NOの世論が圧倒的であることを3,000万署名で示す必要があります。岩手県生協連も幹事団体をつとめ172人の呼びかけ人と130の賛同団体が構成する「安倍9条改憲NO! 全国市民アクション・岩手の会」を中心に、学習や毎月19日を中心とした街宣行動など、改憲阻止に向けた取り組みを広げていきます。

●改ざん・隠ぺい・責任逃れに

OUT! 「4・11緊急大行動」

森友・加計疑惑などの解明と安倍内閣総辞職を求め、市民と野党共闘の緊急集会として、「ABE OUT! 4・11緊急大行動 MORIOKA」を開催。180人が参加しました。幹事団体のひとつ憲法改悪反対岩手県共同センター代表佐々木良博弁護士が、「腐敗した安倍内閣を退陣させるため、怒



りの声をあげ続けましょう」とあいさつ。「国民をだまし続ける政治を終わらせよう!」という集会アピールを採択後、市内をデモ行進しました。

●安倍改憲の危険性を学習

「5.3憲法集会inいわて」

会場とモニターでの第2会場を含め、900人が参加。野党4党からのあいさつや、達増拓也岩手

県知事、高橋昌造矢巾町長からのメッセージ紹介のあと、木村草太首都大学東京教授が講演。安倍政権が自衛隊の任務をあいまいにしたまま改憲発議をし、可決後に集団的自衛権を含めて自衛隊が認められたと言いつつ危険性がある、と指摘。「無意味な国民投票に多額のお金を使うより、災害への備えや奨学金にまわした方がいい」と訴えました。



木村氏の話に参加者でぎっしりの会場は熱気に包まれました。

著名な講師だったことはもちろん、ラジオCMや、大学や高校、街中での学生への宣伝効果もあり、全体の2、3割は若者が参加。「なぜ安倍9条改憲NO!」なのかわかった」「話がわかりやすく改憲の危険性がわかった」などの声が多く出され、3,000万署名の推進をみんなで確認しました。

集会後のピースパレードでは、300人がこいのぼりやプラカード、風船等を手に「憲法を守り・生かそう」と市民に訴えました。



750人で「憲法変えずに政治を変えよう」。

●改憲も安倍政権も今すぐやめて！
750人が怒りの「7・1いわて市民アクション」

改憲反対と安倍政権の早期退陣、3,000万署名のさらなる推進を呼びかける集会を開催。厳しい暑さの中、生協関係、労働組

合、市民団体など750人が参加しました。

野党4党の挨拶や市民からのアピールのほか、メインスピーカーとして国会議事堂や官邸前で抗議を続けている「許すな！憲法改悪市民連絡会」事務局次長の菱山南帆子さんがスピーチ。「壁を壊す沸点はもうそこまで来ている。改憲を止め、市民の力で世の中を変えなければ！」と訴えました。

また、この日は安倍首相への抗議ハガキも呼びかけ、259通集まりました。

7月10日時点で、岩手での3,000万署名は、16万6千筆に。目標の30万筆に向け、引き続き学習や地域訪問などで、署名を呼びかけていきます。



「現政権は女性や働く人に冷たい。市民の力で代えなきゃいけない」と訴える菱山さん。



集会後は、ピースパレードで市民にアピール。



岩手県教職員組合青年部による憲法前文や9条の群読も実施

岩手県庁生活協同組合

県職員の福利厚生事業を目的として主に購買、食堂事業を中心に、グループ保険、住宅マンション紹介等、様々な事業を県庁、盛岡広域振興局、県警本部の売店3店舗、食堂2店舗にて展開しています。

購買事業は、食料品、日用雑貨から事務用品、公務に必要な用品類、県証紙等を販売。県の施策に合わせ観光キャラクター「わんこきょうだい」グッズを充実させ、県産品販売にも力を入れています。また、他県生協との協力で、相互の商品を展開し合い、魅力発信も頑張っています。

店舗にはテナントとして、クリーニング、理容室、化粧品店、靴店等があり、職場に居ながら各種サービスが受けられるようになっていきます。近年は「ILC誘致運動」「ラグビーワールドカップ2019」に向けた大会グッズ斡旋を開始し、開幕前の盛り上げに協力しています。



県内障がい者支援施設の商品コーナーも設置。購買による支援も行っています。

食堂事業は、バランスの良い健康的な献立作りを心がけ、日替わりメニューも多くし、飽きられないランチ提供を工夫。毎月第4金曜日は、岩手県産食材の振興策「いわて食財の日」に協賛し、県産食材中心の特別定食を提供。県のイベント協力店にも認定されています。「組合員の健康は食事から」をモットーに、岩手の美味しさを発信し応援していきます。

今後も、県職員、来庁者の方々に喜んでご利用いただける事業を目指して取り組んでいきます。

盛岡大学生生活協同組合

地方私立大学である盛岡大学の一環早いAO入試合格者は10月初めには決まり、年内中には約半数の300名近くの新入生が入学手続きを済ませます。盛岡大学生協では、例年そういった新入生の住まいを紹介を中心にサポートセンターを運営しています。特に県外の方からしてみれば、見知らぬ土地での初めての一人暮らしということ、不安はつきません。サポートセンターでは、そういった不安を解消するために、学生委員が自分たちの大学生活の経験等を伝えながら新生活スタート準備のサポートを行っています。

ただ、ここ数年アパートを借りず遠くの自宅から通学して来る学生さんが増えているため、入学準備のためにサポートセンター（非生協）に来ることが減っています。入学前に生協に来ない（非接点がない）ことによって、入学した後「盛岡大学生協」とい

う存在があることを知る方が増えていました。

そこで2018年度新入生向けに、2017年12月に「自宅生保護者説明会」を開催することにしました。内容については学生委員が中心に「新入生が知りたいこと」「生協・先輩が伝えたいこと」を整理し、説明がより伝わるように生協職員と学生委員のパネルディスカッションや提案している商品の実物の展示なども取り入れました。全部で4回行い120組近くの新入生に参加いただくことができました。



自宅生保護者説明会のようす。

■協同組合の力で
苗木600本を植林



海を臨む半島の急斜面に針葉樹・広葉樹を植林。

「岩手県協同組合間提携協議会」(岩手県生協連飯塚会長は副会長)では、2012年の国際協同組合年の後継事業として植林活動が続いています。今年度は7月6日に10組合23人と、JCA(日本協同組合連携機構)から2名を迎え、釜石地方森林組合の協力のもと釜石市尾崎半島での植林を行いました。

尾崎半島は、2017年5月に大規模な林野火災で400ヘクタールを消失。早急な森づくりが震災復興にもなるとして、600本の苗木を植えました。釜石市は今年中に消失の1割に当たる40ヘクタールの植林を目標としていますが、まだまだ進んでいません。引き続き協力や支援の必要性を感じた活動でした。

■被災地での「いわて生協ふれあいサロン」が3,500回を超える



「災害公営住宅ではこういう交流がない。みんなで話しながら作るのは楽しい」。

いわて生協の組合員ボランティアが東日本大震災の被災地の応急仮設住宅集会所を中心に開催している「ふれあいサロン」が、6月19日に3,500回を超えました。この日は釜石市野田町第2仮設団地で、犬の形をした紙テープ製の小物入れを参加者に手ほどきし、一緒に作成。また、医療支援で訪れた長野医療生協(長野市)のスタッフらによる血圧計や体組成計での健康チェックや、誤嚥性肺炎を予防する「嚥下体操」を行いました。

ふれあいサロンは2011年6月から始め、2018年6月現在32か所で実施。復興がすすむにつれ、開催も減ってきていますが、住民の居場所づくりのため、要望

がある限り続けていきます。

■核兵器禁止条約採択から1年
「ピースウエーブセタアクション」



道行く方々に平和への願いを短冊に書いて結んでもらいました。

昨年7月7日、人類史上初めて核兵器を違法化する「核兵器禁止条約」が国連で採択。核保有国と同盟国を条約に参加させるため、岩手県生協連も幹事団体を務める「ヒバクシャ国際署名をすすめる岩手の会」では、7月7日を中心

に県内数箇所「ヒバクシャ国際署名」を呼びかけました。

盛岡では、広島で被爆した三田健二郎さん(岩手県原爆被害者団体協議会副会長)がマイクを握り、「どこの国のだれも、あの地獄にあわせたくない」と、核兵器廃絶と署名への協力を力を込めて呼び

かけました。

現在、岩手での署名数は15万6千筆。目標の50万筆に向け、今後地域組織の推進や若者への呼びかけなどの取り組みを強めていきます。

■当生協連顧問加藤善正著
「岩手の生協ものがたり」完成

岩手県生協連では、ユネスコ(国際連合教育科学文化機関)が協同組合を「無形文化遺産」に登録したことを記念し、半世紀以上にわたり「協同組合らしい生協」を求めてきた同連合会前会長理事で現顧問加藤善正の「思想と実践」をものがたりにとまとめ、5月25日に発刊しました。

本書は、生協の組合員・役員・協同組合の研究者・友誼団体・全国の協同組合のみなさまに、ぜひお読みいただきたい一冊です。また、図書館等の生協関係の書籍としても一冊お備えください。

ご注文・お問い合わせは、岩手県生協連まで。



「岩手の生協ものがたり」
定価：1,080円(税込)
A5判・184頁